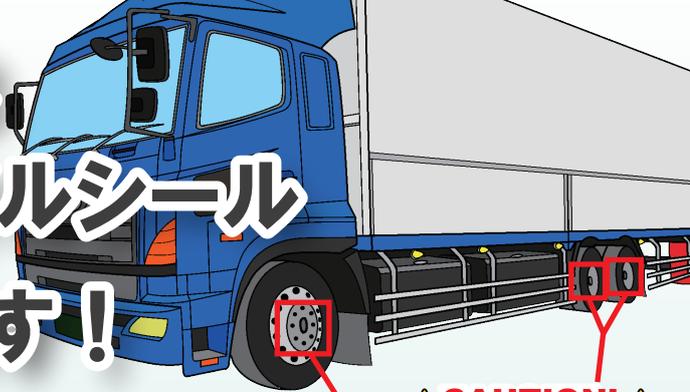


武蔵オイルシール工業は インナーとアウターのオイルシール 同時交換を推奨します！



⚠ CAUTION! ⚠

現状

アウター（シャフト）

⇒点検時にブレーキを点検する為に外し交換する。

インナー（ハブ）

⇒グリスが漏れていなければ交換しない。



漏れてからでは手遅れです！！

シゴボシ

オイルシールは消耗品です！

_(・ω・`)ココ重要！

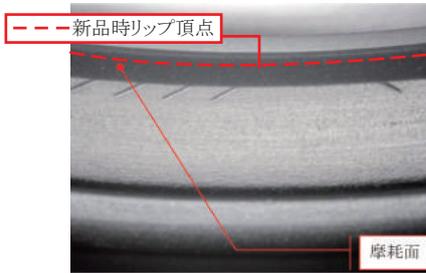
近年、トラックやトレーラーの火災に関して社会も敏感になってきており、運行管理面でも厳しい基準になってきています。オイルシールもタイヤやブレーキ同様消耗品です。再利用は不可となっております、取り外しはもちろん一度シャフトを抜いたら交換してください。

◆インナーが摩耗してグリスが飛散したドラム内◆

◆消耗（摩耗）し漏れが発生したオイルシール例◆



ベアリングが焼きついている



---新品時リップ頂点

摩耗面



直径方向 0.5mm
軸方向 1.4mm

でも...

異音がしても ハブに抵抗が発生しても グリスが漏れても

大きな貨物車両では気づきません！

(特に長距離走行時は発熱しやすく、他の部品への影響が拡大しやすくなります)



グリスが漏れたら交換すれば・・・？

異物が混入しグリスが吸収。発熱しグリス大部分が揮発してしまい、ベアリングは焼きついてしまっています。この場合は漏れとして症状が起きず発見が遅くなります。実際、ハブベアリングが原因の火災は多く、定期交換していれば防げた事例もまた多いです。

参考：国土交通省リコール課 HP / 日本自動車整備振興会連合会 ホイールベアリングの整備不良による車両火災防止について



アウターはブレーキメンテナンス時に交換する事もありますが、アウターよりブレーキに近い分、劣悪な環境のインナーももちろん同様に消耗（摩耗）します。再利用率を高め漏れる前に交換することで、事故や火災を未然に防ぎ、安全で安心な運行を実現しましょう！